

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871900296		
法人名	社会福祉法人 博慈会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家	ユニット名	1号館
所在地	〒300-1214 茨城県牛久市女化町253-2		
自己評価作成日	平成26年5月5日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0871900296-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年6月12日	評価機関 決 裁 日	平成26年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員はご利用者の意欲や出来ることを見極め、食事づくりでは野菜の皮むきや切ること、ちぎること、盛り付けなど役割りを分担し全員が参加出来るようにしたり、野菜作り、裁縫、洗濯物たたみ、掃除、買い物など家庭の日常の活動をご利用者と一緒出来るよう働きかけ、支援しています。

季節の行事や慣わし（初詣、節分、雛祭り、花見、夏祭り、十五夜、お彼岸、餅つきなど）、果物狩りなどを行ったり、季節の食材を取り入れた献立など季節感を取り入れた生活を心掛けています。

地区のお祭りに出かけたり、幼稚園児との交流など地域の方との関わりを進めています。

ご利用者の重度化に対応して、食事形態の工夫や、介護・看取りに対する体制作りなどをすすめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は緑豊かな場所に立地し、すぐ近くには女化神社があり、天気の良い日は安心して散歩ができる環境となっている。

管理者は職員と日頃から何でも話せる関係を築くなど、風通しの良い働きやすい職場の環境づくりに努めている。

敷地内に同一法人の特別養護老人ホームや通所介護事業所、居宅介護支援事業所があり、お互いに連絡を取り合って研修を行うなど、日頃から連携を図っている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の職員で考えた理念がある。玄関先に掲げ、常にサービスの意義や役割を意識しながらサービスに取り組んでいる。会議ではそれらに添ったケアが出来ているか確認し合い実践に結びつけている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を職員のみならず利用者や家族等にもわかるように大きく模造紙に書き、玄関に掲示している。 管理者と職員は月1回のユニット会議で理念にそったケアが常に行われているかを確認し、共有しながら日々のケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃は地域の店舗への買い物や散歩途中で合う方と挨拶を交わすなど地域にこのような施設があることをアピールしている。幼稚園の運動会に見学にいたり、園児を招いて交流するなどしている。 自治会に入会し、区報のやり取りやお祭り、会合への参加などを行っている。	事業所は自治会に加入し、回覧板を通して地域の情報を得ている。 地域で行われる祭りに参加し、屋台の物や野菜を買ったり、ブラスバンドを聞いたりしているほか、幼稚園の運動会に招待されて見学するなど、地域住民と利用者の交流が図れるように支援をしている。 利用者は散歩や買い物時に近隣住民と挨拶を交わすなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生の受入れ、行事への招待などを通して認知症の方に対する理解を深めていただけるよう進めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事などの活動状況、避難訓練や予防接種などの実施状況、介護事故についてなどの報告を行い、ご意見を頂きケアに活かしている。 地域の催し物の情報を頂き、招待を受けたり、参加したりしている。	運営推進会議は家族等や市職員、民生委員、区長、老人会長、管理者で2ヶ月に1回開催しているが、市職員が毎回出席するまでには至っていない。 会議では事業所の活動報告や行事予定、利用状況の説明、事故報告をするほか、委員からの「介護料金について知りたい」や「看取りをどのように行っているか」などの質問等に回答するとともに、職員会議で報告し、全職員が答えられるように取り組むなど、サービスの質の向上に活かしている。	市職員が運営推進会議に毎回出席してもらうにはどうしたら可能か、市から委託されている地域包括支援センターの職員に出席してもらったり、曜日を変更するなど市と十分話し合い、毎回出席してもらうことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所・退所の連絡や相談、職員体制の相談、処遇困難ケースの相談を行ったりしている。 運営推進会議での報告や介護相談員の受入れなどを通して、日頃のケアの様子を伝えている。	運営推進会議を利用し、市担当者との情報交換をしている。 相談内容の一例は、「家族が全く協力的でない利用者が、万が一急変などで入院が必要になった場合、なかなか成年後見制度の導入も難しく、どうしたらいいか」などであったが、市担当者と相談した結果、市長が申請人になる事で成年後見制度を導入することができ解決したなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先に身体拘束廃止に関するポスターを掲げたり、契約時に説明したりして、ご家族にもその大切さの理解を深めていただけるようにしている。検討会議等で身体拘束をしないで済むケアの方法を話し合い、福祉機器も活用して実践している。9:00～15:30の間は玄関やベランダの鍵を開錠し、ご利用者の自由な出入りが出来るようにしている。	玄関に高齢者虐待ゼロ宣言のポスターを掲示するとともに、身体拘束を行わないケアについての研修を行い、全職員が身体拘束の弊害を正しく理解している。 9時から15時30分の間玄関が開錠され、利用者は自由に出入りができるようになっている。 不穏状態の利用者が入居している場合は、職員が3人以上揃ってから開錠するようにしている。 入居したばかりで歩行状態が不安定な利用者の場合などは、夜間のみ壁際にベッドをつけ、2点柵を使用することを家族に説明し、書面で同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員室内に虐待に関するポスターを掲げ常に意識できるよう努めている。 ご利用者の気持ちを考えるケアに取り組んでいる。業務の手順を柔軟に変更し、職員がゆとりを持ってケアにあたれるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見人制度を利用しているご利用者があり、その目的や大切さを学んでいる。 本人と支援員、後見人の関係がうまくいくように職員が調整や連絡を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をもって重要事項の説明やサービス内容の説明をし、同意を得た上で契約を行っている。特に医療や重度化した場合の対応などには慎重に説明している。また、いつでも閲覧できる場所に提示していると共に、変更があった際にはその都度、同意を得ている。	/		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には近況を報告しながらご意見を伺っている。運営推進会議への参加を呼びかけている。 月1回介護相談員を受入れ、ご利用者やご家族が外部者にも意見を表せる機会を設けている。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議、事業所主催のイベントに参加している時などに意見や要望を聴くように努めている。 看取りに関するアンケートを行い、家族等の思いを運営に反映させている。	/	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から業務上の課題について話し合ったり、会議や申し送りの場でも検討を重ねたりしている。自由に発言できる雰囲気があり、職員の意見が運営に反映されている。	管理者は月1回の職員会議時に職員の意見や提案を聞いたり、日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図ったりして、職員が意見や提案を出し易い環境を築いている。 職員の意見は、「毎日入浴を希望する利用者についてどの時間だったら可能か」などのケアについてや「有給休暇について、皆が仕事に支障がなく取るには」などで、管理者はできるだけ出た意見等を運営に反映させるよう努めている。	/	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じた報奨制度、人事考課制度、上司と部下との2者面談、サークル活動の支援、資格取得のための支援、育児中のシフトの調整など、職員の福利厚生を整えられるよう努めている。	/		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度や日頃の業務の様子から職員個々の力量を把握できるよう努めている。職場内研修、外部研修をの情報を掲示し、参加の奨励を勧めている。一人一人の力量に合わせた研修を受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や市内の事業所職員が集まる協議会などで情報の交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートなどを用いてご家族等から出来るだけその方の情報を得て、把握し、安心感を与えられるコミュニケーションに努めている。行動や会話の中から困っていることや、不安に思っていることは無いか汲み取り、情報を集め、職員同士で共有し、徐々に関係が深められるよう慎重に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は自己紹介を行い、質問には正確に答えられるよう努めている。ご利用者の様子を良く伝え安心できるように勤めている。ご家族の要望や困っていることにも、その真意を考えながら傾聴し、不安を取り除けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネ等の情報を元に、入居前のアセスメントから必要なケアについて話し合い準備を整えている。ご家族に記入していただくセンター方式シートや入居後の生活状態により必要なケアを見極めケアを深めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員より長く年月を過ごされている大先輩なので、職員は教えられる立場と考えている。「できる事」「できない事」を見極め、それに合わせて、共に食事を作ったり、掃除をしたり、一緒に食事を摂ったり、教えていただいたりしながら共に生活している者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りや状態の変化が見られる都度、状況を伝えている。本人のことで分からないことはご家族に聞いて一緒に考えていただいている。受診の付き添いをお願いしたり、行事などにお誘いしている。電話でお話して頂き、利用者に精神的に安定した生活が送れるよう協力を頂くこともある。職員がご家族の関わりを減らさぬように、やり過ぎないことも大切と思われる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙(年賀状など)による交流の支援や、馴染みの場所(自宅、お墓、商店など)への希望も可能な範囲で支援している。 ご家族、兄弟、友人が来訪時には、居心地良く感じられるように、お茶を出したり環境作りに努めている。	入居時に利用者や家族等からこれまでの生活歴や馴染みの人や場所を聞き、アセスメントシートに記載して全職員が把握できるようにしている。 利用者の馴染みの人がいつでも気軽に来訪できるようお茶を出して接待するほか、馴染みの美容室や墓参りなどに行けるよう家族等と協力して支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を把握し、座席の調整や、食事作りなどの作業や会話を通して関係を深められるよう支援していて、互いに協力し合っている場面が見られる。職員が談話の中で利用者同士が通じる話題を提供したりして孤立することがない様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等に移り住むご利用者の状況、習慣、好みやこれまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、必要や求めに応じて、相談や支援をするようにしている。移り住み、亡くなった後にもご家族から連絡や面会があるなどしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴や日頃の会話の中から思いを引き出し、暮らし方の意向や希望を汲み取り、把握できるよう努めている。複数の職員の情報を組み合わせることで、思いが分かることがある。家族からも意向を伺い本人本位のケアが出来るよう努めている。	職員は利用者がその人らしい暮らしを続けられるように、日常の関わりや会話を通して希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得たりして把握した内容や気付いたことを「引き継ぎノート」に記載し、全職員で共有している。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中で表情や行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。 市から月1回来訪している相談員からも利用者の情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時情報やご家族に書いていただくセンター方式シートからの情報と、何より普段の会話の中で、様々な材料(ニュース、行事など)を用いて、小さな頃の事や仕事の事などそれまで経験してきた事を聞きだしその方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に家事などの活動をする中で、生活パターンや心身状態、有する能力が把握できる。24時間の様子の記録や申し送り等で職員の誰もが情報を共有できる。特に注意すべき変化や対応が必要なものは連絡帳に書き、職員が把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	24時間の様子を記録できる様式を用い介護計画に対する結果を記録できるようにしている。全職員で定期的に行われるケース検討の他、日々変わる状況に合わせて複数人で対応を検討し、現状に即したケアが出来るように努めている。	介護計画は利用者や家族等の希望や意向を取り入れるとともに、主治医や看護師、職員の意見をまとめて計画作成担当者が作成し、6ヶ月毎に見直している。 心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の活動の状況や健康の状態がすぐに分かるような記録様式を用いている。その日気づいた事を出来るだけ生き生きと伝えるように書き表すよう努めている。業務の始めには全員が目を通すことで、情報を共有し、日々のケアや計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のそのときの都合により、受診の送迎、付き添いの支援、一時帰宅やお墓参りの送迎、付き添いの支援など出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の老人会や外出の際のボランティア、神社の境内を借りてのお花見会、幼稚園の運動会見学、障害者施設のパンの訪問販売、など地域の方の力をお借りしながら、楽しみがある生活を送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族による受診の援助が困難な場合には、同意を得た上で当方の協力医療機関に主治医の変更をしていただいている。その都度、必要な情報を伝え、主治医と連携して適切な医療を受けられるよう努めている。重度化で通院が困難になった場合は往診専門医につながるなど適切な医療を受けられるように支援している。	月2回協力医療機関の医師による訪問診療や月4回の訪問看護を受け、健康管理ができる体制になっている。 協力医療機関への受診結果は家族等に報告している。 かかりつけ医への受診は家族等が付き添っているが、家族等の付き添いが困難な場合は、職員が受診支援をしている。 職員はかかりつけ医への適切な受診ができるよう、利用者の状態を口答で伝えるとともに、家族等からの結果報告は「通院報告書」に記載し、職員全員が情報を共有できるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師と連携を取り毎週1回訪問時の健康チェック時の他、24時間相談できるようになっている。皮膚トラブルや緊急時などには併設施設の看護師にも相談できる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、身体状況や精神状況も含め近況の状況を詳細に伝え、退院時には通院の可否、療養上の注意点などの情報を受け、受け入れ態勢を整え退院後の生活がスムーズにいくように支援している。 入院中も面会や電話などで情報の交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には「重度化した場合における対応に係る指針」「看取り介護に関する指針」を基に提供可能なサービスや施設の方針等を説明している。段階ごとに家族や主治医と意向を確認しながら対応方針の共有を図っている。その中で出来る限りの支援を行えるよう取り組んでいる。	事業所は看取りを行う方針で重要事項説明書に明記し、「重度化した場合における対応に係る指針」や「看取り介護に関する指針」、「ターミナルケア・マニュアル」を作成し、利用者や家族等に説明して同意を得たり、協力医療機関の医師や訪問看護師などの関係者とチームを組み、重度化の介護や看取り介護を実践している。 管理者は全国老人福祉施設協議会の「看取り介護の実践フォーラム」の研修に参加し、そこで学んだことを事業所内で伝達研修を行い、全職員が学べる環境に取り組んでいる。 ターミナルケア委員会を3ヶ月に1回開催し、家族等に対して看取りに関するアンケートを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の観察のポイントや対応方法、心配蘇生法、AEDの使用方法など研修の研修を定期的に行い、また、対応マニュアルを職員の見やすい場所に貼って、適切に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急通報装置やスプリンクラーなどインフラを整備している。 年2回消防署職員の立会いの下、昼夜想定での避難訓練を実施し、通報や避難の方法、併施設職員との連携などを確認している。	年2回消防署立会いのもと避難訓練を実施し、内1回は夜間を想定した訓練を実施している。 避難訓練には区長や民生委員の参加を得ている。 避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった問題は出されているが、次回の課題として訓練に活かすまでには至っていない。 災害に備えて食料や飲料水を備蓄している。	避難訓練で明らかになった問題点を全職員で話し合い、次回の課題として訓練に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁や食べこぼし等、他利用者に気付かれないよう対応したり、居室へ入る際は、声をかけてから入るなど、プライバシーを損ねないよう配慮している。一人一人の人格を尊重し、失敗や間違いを指摘しない、名前を「さん」付けで呼ぶ、何かしてもらった時には「ありがとう」と必ず声をかける等の配慮を行っている。	職員は利用者の個性を把握して一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立作りや、余暇活動などその時その時において希望が出るように支援している。ご利用者が話している時は、話をおらずに最後まで聞いて、本当に思っていることが何なのかを聞けるようにしている。「～しませんか」「～していただけますか」と自己決定を促す言葉かけにも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動や休養のパターンが一人一人出来ているので、それに合わせている。 習字や散歩、買い物等の希望があった時には可能な限りその意向を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで化粧をされていて出来なくなってしまうご利用者には職員が介助している。ご利用者の意向を聞きつつ美容室の予約をしたりしている。なじみの服をいつも着ていたいという方もいるが、外出時にはよそ行きの服を着られるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	切る、ほぐす、炒める、洗う、配膳するなどその方の出来ることを細かく把握、役割分担し、食事づくりや片付けに力を発揮して頂いている。皆で作って食べる事を楽しめるよう支援している。時には「お楽しみ」として買い物から楽しめる機会を設けたり、お誕生日にはその方の好みの献立を用意したり、外食の機会を設けたりしている。	職員が週1回献立を作成し、近隣の商店から毎日食材を配送してもらっている。利用者は職員と一緒に調理をしたり、同じ食卓を囲みながら温かい食事を摂っている。利用者は配膳や後片付け、テーブル拭き、食器洗いなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。誕生会や季節行事には特別食を提供しているほか、外食を取り入れて利用者が食事を楽しめるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜や肉・魚、乳製品などバランスよい献立になるよう努力している。水分の摂取が苦手な方には麦茶ゼリーを提供して一日の水分量の確保に努めている。1人1人のいつもの摂取量を把握し、変化がないか注意しており、食事が取れないときにはお粥にしたり高カロリーゼリーの提供などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、歯磨きの介助や入れ歯の手入れ、イソジンでのうがいなど1人1人の出来ること、出来無いことを把握し、状態に応じて職員が支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンや失禁の状況を把握し、それに合わせて、なるべくトイレで排泄できるよう、自立を保てるよう、声掛けや、トイレ誘導、オムツ類の調整を行っている。日中は普通のパンツ、夜間は紙おむつ使用など。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導をし、トイレで排泄ができるように支援をしている。夜間、必要な利用者には居室にポータブルトイレを配置し、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では、水分、野菜類やきのこ類、ヨーグルトなどをふんだんに使い、便秘にならないよう配慮している。下剤やセンナ茶を服用しているご利用者には、排便の状況によって下剤の調整を行っている。腹部マッサージを行ったり、トイレに長めに座っていただいたりなど出来るだけ自然排便が出来るよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の入浴時間帯は夕方と決まっているが、希望や体調に合わせて他の時間にも入れるよう可能な限り対応している。ゆず湯や菖蒲湯など実施したり、入浴の方法(湯に浸かる時間や湯温など)も一人一人に合わせるなど、ゆったりと入浴を楽しめるよう配慮している。	入浴は1日おきに午後と決まっているが、毎日入浴を希望する利用者の場合は、希望通り毎日入れるように支援している。入浴を拒む利用者はほとんどいないが、体調不良の場合は清拭などで対応している。菖蒲湯や柚子湯などで季節を感じてもらえるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールに姿が見えないときなどはそっと居室を覗き、寝ていたらゆっくり休んでいただいている。昼夜逆転し易い方には出来るだけ日中に運動や散歩、日光浴等を通して、夜間安眠できるよう支援している。不安で眠れない方には職員が添い寝している。週1回くらい布団を干して、掛け布団や室温の調整にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の内容を把握している。ケースファイルにも内容が一目で分かるよう整理している。処方が変わった際には、申し送り書等で確認し、体調や精神状態など変化がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みや出来る事を活かして、掃除や食事作りなどの役割をこなしていただいている。一人一人が得意としている、歌や習字、大正琴、野菜づくりなどをする機会を作り、本人の自信につながるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に天気の良い日はドライブや散歩に出かけ外の空気に触れられる機会を作れるよう支援している。お菓子などの個別の買い物希望にも対応している。ご家族の協力を得て、毎週自宅に外泊できるように支援しているご利用者もいる。お弁当を持って外出したりもしている。帰宅願望のある方の外出支援には苦慮している。	利用者は天気の良い日には事業所周辺を散歩して五感を刺激したり、四季の移り変わりを楽しんだりしている。 事業所の車両を利用して買い物や花見、苺狩りなどに出かけて気分転換を図るほか、家族等の協力を得て買い物や事業所主催の食事会に出かけられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理する場合、自分でお金を持つ安心感を考慮し、紛失する可能性があることをご家族にご了承いただきながら、それを支援している。施設側で管理している方に対しても、本人に自由に使えるお金があることを説明し、買い物時は何か欲しい物はないか伺ったり、支払いを本人にさせていただくなどの援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人を思って訴えがある場合には、電話を勧めたり、取り次いだりしている。 年賀状や手紙などのときは、文面を一緒に考えたり、宛名書きを代行したりなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適所にソファやイスを配置して、好みのあるところでくつろげるよう配慮している。 季節ごとの花や飾り付けを行い、季節感を感じていただけるよう配慮している。 日常や行事の時の写真を掲示して、楽しみの一つとなっている。 トイレなどわかり易い張り紙を貼って混乱を軽減できるように工夫している。	居間兼食堂の壁には利用者が制作した菖蒲や紫陽花の貼り絵の作品のほか、行事等の写真が飾られており、掃き出し窓からはキュウリや茄子、季節の花などが眺められ、常に季節を感じられる環境となっている。 職員は採光や湿度に気を配るほか、廊下には自由に飲めるよう麦茶が入ったクーラーボックスを配置し、脱水状態にならないよう工夫をするなど、利用者が穏やかに過ごせるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席を決め一人一人の居場所を確保している。 テレビ前や離れにイスを配置して、時に一人でくつろいだり、気の合う者同士くつろいだり出来るようにしている。安全面にも配慮して配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥や机、布団、テレビ、仏壇、写真などを配置し、できるだけ居心地よく過ごせるよう配慮している。一人一人違った雰囲気のある居室となっている。	居室は洗面台やクローゼット、エアコン、ベッド、カーテンが備え付けられている。 管理者は利用者や家族等に好みに合わせて布団を持ち込んでもらったり、使い慣れた馴染みの箆笥やテレビ、椅子、メガネ、趣味の本、家族の写真など、大切な物品を持ち込んでもらったりして、利用者が居心地よく過ごせる場所となるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子やシルバーカーでも通れるようスペースを確保したり、適所に手すりを配置する、トイレなどわかりやすい張り紙、居室入り口の暖簾などして安全、分かりやすい環境作りに配慮している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 指定認知症対応型共同生活介護虹の家

作成日 平成26年11月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練において、実施後の反省点は検討されているが、それが次の訓練に活かされていない。	前回の反省を活かした訓練を行い、職員の錬度を上げる。	・前回の反省点とその対策や訓練の目標を訓練計画書に明記する。	1年間
2	4	運営推進会議に市職員が毎回出席するまでに至っていない。	運営推進会議に市職員に毎回出席していただく。	・市の担当の方と相談し毎回何方かの出席をいただけるよう調整する。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。